

令和6年度 MieMuの活動と運営 各戦略・戦術一覧

戦略 1

中間アウトカム	(A)	利用者が三重への愛着・魅力を感じる
戦略	1	三重の魅力を向上させるために、学芸員が館蔵資料の収集整理管理・調査研究を強化します
カテゴリー	(01)(A)(調査課)	(資料の収集整理管理、調査研究)
結果	アウトカム(成果)	調査・資料情報課長によるレビュー
目標値	体制・方針づくり	達成度 2
内部評価	各戦術のアウトプットは達成しているが、資料の収集整理管理については、館内にワーキンググループを立ち上げているものの、体制・方針づくりといった基盤整備は未だ不十分である。また、調査研究活動については、研究を推進する基礎となる調査日数が、目標値の75.7%しか達成していないため、「2. 達成できていない」とした。	
外部評価	達成度 3	個別の戦術の成果が出ていることは評価できる。体制整備や評価基準の明確化といった根本的な課題が残っていることから、3と評価した

達成度	
4	大変よく達成できた
3	達成できた
2	達成できていない
1	全く達成できていない

戦術番号	1	2	3	4
戦術	学芸員が魅力の素材となる資料収集を行います	学芸員が計画的に調査・研究を行います	学芸員が資料整理を進め、県民・利用者への資料情報の公開に努めます	学芸員が収集・展示資料の保全に関するスキルアップを図り、貴重な県民財産(資料)を保全・継承します
アウトプット指標	当該年度収集・購入資料群(件)数 目標値:16件 実績値:73件 ○	成果公表数 目標値:26件/年 実績値:67件/年 ○	データベース閲覧回数 目標値:1,800回 実績値:2,635回 ○	毀損資料の発生件数 目標値:0件 実績値:0件 ○
内部評価	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4
戦術を評価するための指標の分析結果(事実確認)	収集資料件数(73件)の内訳 購入資料46件 寄贈資料27件 ・コロナ流行後、資料の寄贈相談、受入件数が増加したが、この傾向は令和6年度にも引き継がれている。加えて、後継者問題も寄贈件数増加の一因となっている。 ・上記の傾向は、今後しばらくは続くものと考えられる。	成果公表数(67件の内訳) ・研究成果の刊行 4件 ・発表論文等 9件 ・著書・編書等 15件 ・資料紹介・報告・研究ノート等 5件 ・普及的著作 21件 ・招待講演・学術発表等 13件 学芸員ごとの成果公表回数 ・公表数:0件:2名、1件:4名、2件:1名、3件:1名、4件:3名、6件:2名、7件:2名、15件:1名	・データベースの閲覧回数が、目標値を大きく上回る2635回となった。 ・4月の閲覧回数は比較的少なかったものの、5月以降は回復し、特に10月以降は月250~300回弱と大きく増加している。	毀損はなかったが定期清掃時に文化財害虫を発見し、トラップの設置によるモニタリングと念入りな清掃を実施。一定期間モニタリングを実施し定期清掃の結果が出ていることを確認した。
特筆すべき取組(評価できる点)	予算の効率的な運用により、年度末に資料購入費を確保できたため、資料を多く購入できた	・成果の把握方法を見直したことによって、公表の無い学芸員数は減少し、数字としては、目標値を大きく上回った。 ・教育普及的著作を多く公表したことで、一般の方に広く当館を知らしめることができた。	令和6年度に受け入れた資料、及び過年度より整理を進めている資料について、人文系資料を中心に695点と、目標値を大きく上回る登録を行った。	月1回の定期清掃により、管理する資料の状態を各学芸員が確認することができた。毀損資料の発生件数は0件であった。
改善視点(課題)	より質の高い資料を収集するために、受入基準の明確化を行う。	・個々の学芸員の成果公表数には大きな偏りがあり、これを解消するため、普及的著作物の執筆割振を均等化するなどの調整が必要である。 ・学術的な信頼性を確保するために、基礎研究に基づく成果公表数の増加が必要	・より多くの人々が館蔵資料データベースを利用、閲覧できるように、主な資料群の紹介や、企画展、特別展ともリンクできるような工夫をおこなう。	・令和6年度は外部講師によるオンライン研修を2回実施したが、モニタリング結果の分析など当館に特化した内部の研修が必要だった。 ・令和7年度は地質担当者の退職により地学収蔵庫の定期清掃の実施人数が減少。地学及び大型収蔵庫には民俗資料もあるため今後は調査課の会議後に収蔵庫内清掃を実施。より多くの目で確認することとした。
具体的活動指標	資料収集・購入検討数 目標値:24件/年 実績値:77件/年 ○	調査日数 目標値:336日/年 実績値:254.5日/年(19.5日/人) △	データベース登録(更新)点数および資料紹介点数 目標値:300点 実績値:695点 ○	①研修回数 ②清掃点検回数 ①目標値:2回/年 実績値:2回/年 ○ ②目標値:12回/年 実績値:12回/年
備考	※採集による資料収集は含めない		閲覧回数の集計システムが変更されて2か年であることから、比較検討は令和5年度からとなる。しばらく推移を注視する必要がある。	
外部評価	評価結果 4 十分に評価できる	評価結果 3 目標値は上回っているが、学術的信頼性確保のために必要な基礎研究の時間確保、体制づくりが不十分のため、3と評価した。	評価結果 4 10月以降の増加の原因は不明だが、目標値を超えているため	評価結果 4 -

戦略 2				戦略 3			
中間アウトカム	(A)	利用者が三重への愛着・魅力を感じる		(A)	利用者が三重への愛着・魅力を感じる		
戦略	2	県民・利用者に三重の魅力を知っていただくために、学芸員が展示を行ないます		3	MieMuを身近に感じてもらうために、子どもが楽しめる学びを提供します		
カテゴリー	(01)(02)(03)(A)	(展示)	(展示課)	(02)(B)	(学習交流・連携)	(展示課)	
結果	アウトカム(成果)	展示観覧者アンケートで「満足度」の割合(%)		アウトカム(成果)	18歳以下が「博物館での活動を(学習)が楽しい」と感じた割合		達成度 3
目標値	目標値:満足度 70% ※4段階の4のみ		実績値: 満足度 80.7%	目標値:満足度 75% ※4段階の4のみ		実績値: 満足度 78.2%	
内部評価	基本展示と企画展・特別展の満足度を総合すると、「満足」が80.7%と目標値を達成し、令和5年度よりも満足度が向上したので、「4. 大変よく達成できた」とした。			目標値を達成しているが、目標値をわずかに上回る程度であること、各種講座・ワークショップ・フィールドワークは前年度から大きく満足度が低下していることから、「3. 達成できた」とした。			
外部評価	達成度 4		満足度が目標値を上回り、かつ前年度よりも数値の向上が見られるため4と評価する。	達成度 4		18歳以下のアンケートの利用者層を考えると保護者が代理で書いている可能性があり、そこまでは精選できていないようだが、各戦術の取組は高く評価できるため、4と評価した	

戦術番号	5		6		7		8		
戦術	県民・利用者に三重の魅力が詰まった基本展示を、学芸員がわかりやすく伝える工夫をします		学芸員が多様なテーマによる企画展等を開催します		子どもの興味を引き出す工夫を凝らしたこども体験展示室での学びの機会を提供します		学校と連携して子どもたちが能動的な学びを体験できる場を提供します		
アウトプット指標	基本展示観覧者数	目標値:44,000人以上 実績値:60,354人 ○	企画展示等の観覧者数	目標値:123,400人 実績値:243,438人 ○	こども体験展示室利用者数	目標値:27,000人 実績値:37,161人 ○	利用件数	目標値:240件 実績値:266件 ○	
内部評価	評価結果	大変よく達成できた 4	評価結果	大変よく達成できた 4	評価結果	大変よく達成できた 4	評価結果	大変よく達成できた 4	
戦術を評価するための指標の分析結果(事実確認)	・目標値を大きく達成できた。 ・令和5年度よりも116%(R5: 51,925人)増加した。 ・ジブリ展は、入館者数に大きな影響を与えており、基本展示来場者にも大きく期待できたが、この期間を除いても、基本展示入場者数を達成できた(4/2~1/30: 50,786人)。		①第36回企画展(パール)目標:11,000人 展示観覧者数:9,264人(84.2%) 主な来館者層:50歳以上女性・県内 ②第37回企画展(標本)目標:23,000人 展示観覧者数:25,078人(109.0%)主な来館者層:12歳以下・親子づれ・県内 ③第38回企画展(刀剣)目標:19,000人 展示観覧者数:16,037人(84.4%)主な来館者層:20代・30代女性・県外 ④第39回企画展・特別展(金曜ロードショーとジブリ展)目標:70,400人 展示観覧者数:193,059人(274.2%)主な来館者層:全年齢層・県外		・こども体験展示室利用の内訳 一般利用: 35,233人 学校団体利用: 1,928人 ・利用時間枠での定員入替制(6回/1日)実施 ・ケース内の展示替え(3回) ・壁面等の季節の飾りつけ(2回) ・学芸員によるおはなし会(5回) ・未就学児が利用しやすいように、展示資料・什器等の修繕をおこなった。		1. 遠足、社会見学利用校数:187校 6,362人 2. 学芸員講座利用件数:51校 2,356人 3. 総合的な学習支援(5校14回)751人 職場体験支援校数(5校) 9人 4. みえむアウトリーチキット利用件数:18件 18件に全6教材貸出、583人が利用。		
特筆すべき取組(評価できる点)	基本展示をわかりやすく伝える工夫として、基本展示スポットガイド、展示室内のクイズラリー、学校向けワークシートの改良、点字の追加、企画展での関連展示を19回行った。		今年度は、開館10周年記念として4回の企画展を実施できた。年間を通じて243,438人の展示観覧者があり、達成率は目標値(123,400人)を超える197.1%であった。		・混雑時期には適宜運用方法を変更し、利用機会を増やすことができた。 ・学校団体利用枠を設定し、一般利用優先日を設けた。 ・展示替えや季節の飾りつけなどの工夫。また、一部展示資料・什器などの修繕を実施。		・学芸員講座は令和5年度より11校の利用増となった。特に松阪・多気地域からの利用が令和5年度の1.8倍の14校となった。津市、松阪・多気地域の学校に学芸員講座が浸透してきている。 ・みえむアウトリーチキット(貸出教材)の利用件数は、令和5年度から5件増加し、18件であった。		
改善視点(課題)	経年等により修繕が必要な資料がある。日頃から資料の状態をチェックして劣化や破損等で修繕が必要な箇所をリストアップしておく。		企画展広報の効果的な時期や手法について、検討し実施していく必要がある(てこ入れ、ペーパーレス化への対応、次回企画展の周知など)。		・定員以上の子ども連れ(大人1人に対し子ども4人以上)の利用について改善要望があり、検討が必要。		・学校利用は令和5年度より12校減となった。アンケートではその理由は交通費や交通の便等の外的要因に基づくものが多かった。 ・学芸員講座の「1団体につき1回」という規定を、今年度取りやめたところ、6校が複数回受講した。より広域の子どもたちに機会を提供するためにも、再度1団体1回としたい。		
具体的活動指標	工夫を行った回数	目標値:10回 実績値:19回 ○	展覧会の開催回数	目標値:4回/年 実績値:4回/年 ○	工夫(改良)を行った回数	目標値:5回 実績値:12回 ○	利用促進のための働きかけの回数	目標値:200回/年 実績値:186回/年 △	
備考			観覧者数の目標値は協議会資料をもとに計算						
外部評価	評価結果	4	取組は十分評価できる。数値のみでなく質的な工夫の内容を評価シートで明記すべき	評価結果	4	大規模展覧会の運営ができたことは大変評価できる。また、web配信を利用した新たな広報手法への挑戦を行ったことも高く評価できる。	評価結果	4	日常的に子どもの利用が多い博物館は少ない。取組を高く評価できる。
	評価結果	4	利用促進のために学校への丁寧な取組を行っていることが伝わる。学芸員講座の利用者も多く高く評価したい。	評価結果	4		評価結果	4	

戦略 4

中間アウトカム	(B)	MieMuが気軽に利用できる場となる
戦略	4	さまざまな人々がMieMuを利用しやすいよう、多様な機会を提供します
カテゴリー	(02)(B)(展示課)	(学習交流・連携)
結果	アウトカム(成果)	利用者(参加者)が「事業手法に満足した」割合(%) 達成度 3
目標値	目標値:満足度 75% ※4段階の4のみ	実績値: 満足度 79.3%
内部評価	講座・フィールドワーク等の満足度はわずかに目標値に達していないが、学芸員講座については高い満足度を 得ている。両方の満足度を総合すると79.3%であり、目標値をわずかに超えたため、「3. 達成できた」とした。	
外部評価	達成度 4	数値的にはわずかに超えたと読み取れるが、各戦術もよく達成できているため、4と評価できる

戦術番号	9	10	11	12
戦術	五感を使って能動的な学びが体感できる事業を実施します	展示や諸活動で誰もが楽しめる工夫を行います	ICTを活用し、多様な情報を発信します	学芸員が県内どこでも利用できる出張講座に出向きます
アウトプット指標	利用者数 目標値:1,500人 実績値:1,669人 ○	利用者が「誰もが楽しめる工夫がされていると感じた」割合 目標値:80% 実績値:90.8% ○	webページのアクセス回数 目標値:460,000回 実績値:757,060回 ○	利用者数 目標値:1,260人 実績値:3,080人 ○
内部評価	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4
戦術を評価するための指標の分析結果(事実確認)	・館主催講座として以下の講座(10講座41回)を実施し、1,260人が参加した。 ・企画展関連講座として以下の講座(8講座27回)を実施し、409人が参加した。	【基本展示】95.8%(4:62.9%、3:32.9%) 【パール】82.8%(4:45.8%、3:37.1%) 【標本】93.8%(4:70.0%、3:23.8%) 【刀剣展】89.6%(4:49.1%、3:40.5%) 【ジブリ展】92.2%(4:63.4%、3:28.8%)※令和7年3月31日時点 【全体】90.8% ※5つの展示の平均点(95.8+82.8+93.8+89.6+92.2)/5=90.84	・例年アクセス数が多くなる8月も近年と比較して伸びているとともに、年度後半の刀剣展、ジブリ展と関連してアクセス数が増加した。入館者の増加に伴い、ホームページへのアクセス数も増えている。 ・企画展や各種事業の告知など、約3~4回/月の更新を行った。	内訳 学校:51団体、2,356人(76%) 一般:21団体、724人(24%) (計72団体)
指標以外の評価すべき取組(加点点評価)	・コロナ禍で公開を停止していた「さんちゃんのお食事会」を令和6年度より再開した。11回実施し、639人という大多数の参加があった。 ・定員設定のある16講座中13講座で、定員に対する参加率が70~123%と高く、参加者が能動的に学べる場を提供できた。	・すべての展示で、目標値(80%)を超え、5つの展示の平均でも90%を超え、高い結果となった。	・目標値を大幅に上回ることができた。(達成率:164.6%)	学芸員講座の実施回数および参加者数は、103回(目標値の368%)、3080人(目標値の244%)であり、利用者数は前年度より113%増加した
改善視点(課題)	・館主催の事前申込事業 全6講座12回のうち定員(組)以上の申込となったのは4講座5回であった。申込者数の少ない講座については、申込の方法や広報時期などの検討が必要である。 ・抽選となる事前申込事業では、当日キャンセルを見越して、あらかじめ定員の1~2割多く当選とした。当日はおおむね定員に近い人数の参加者となり、より多くの方に参加していただけた。	・展示の計画段階から、展覧会ごとのターゲット層(A)、博物館利用弱者(B)双方への配慮や工夫を検討し、特に、情報の届きにくい(B)には、時間的余裕をもって情報発信していく必要がある。 ・アンケートで得られた改善要望等を、次回の企画展に活かすため、ニーズの把握と実施に向けた検討を行う必要がある。	・目標値は達成したが、「多様な情報」という観点では、計画していた三重の食文化を紹介する特集ページなどをジブリ展による業務過多で公開できなかった。令和7年度に順次公開を進める。	・各団体の申込数を一回のみから複数回可としたことで、申込数は増加したが、学芸員間の負担の差がより顕著に表れる結果となった。申込み実績のない、または少ない講座のテーマ替えにより、人気講座への申込みを分散させるなど改善が必要
具体的活動指標	実施日数 目標値:40日/年 実績値:60日/年 ○	工夫(改良)を行った回数 目標値:10回/年 実績値:12回/年 ○	webページの更新回数 ※資料提供の回数でカウント 目標値:48回/年 実績値:48回/年 ○	学芸員講座を行った回数 目標値:28回/年 実績値:103回/年 ○
備考		アウトプット指標は4段階の4と3の割合	webページの更新回数は資料提供の回数でカウントし、SNSの更新回数(4回/月)は含めない ⇒HPIに誘導するツールとして整理	
外部評価	評価結果 4 実績値が目標値を上回っていることから4と評価した	評価結果 4 工夫については数値だけでは測れないものもある。質的な工夫の内容を具体的に記載し、評価の対象とすべき	評価結果 4 実績値は目標値を超えているため4と評価する。ただしアクセス数が多いだけでICTを活用した情報発信として良いのか。むしろ改善点を重要視すべき。	評価結果 4 よく努力していることが伝わる。十分に評価できる

戦略 5			
中間アウトカム	(B)	MieMuが気軽に利用できる場となる	
戦略	5	県民・利用者が参画・交流を通じた学びを促進するために、多様な主体と連携します	
カテゴリー	(02)(B)	(連携)	(展示課)
結果	アウトカム(成果)	利用者(参加者)が「他者との交流・連携に満足した」割合(%)	達成度 3
目標値	目標値:満足度 75% ※4段階の4のみ		実績値: 満足度 80.0%
内部評価	連携した多様な主体からのアンケート結果では、15件中12件が「満足」と回答しており、満足度は80.0%である。目標値を達成し、8割の満足度は得ているが、各種連携事業においてアンケートが不十分であることを考慮し、「3. 達成できた」とした。		
外部評価	達成度 4	各戦術の達成度が高く、事業への努力も評価できるため、達成度4と評価する。ただし、アンケートの回収率の低さについては今後改善を要する。	

戦術番号	13	14
戦術	ミュージアムパートナー(MP)のさまざまな活動を支援します	企業や各種団体と連携し、人・もの・情報がつどう機会を提供します
アウトプット指標	利用者数 目標値:1,000人 実績値:1,741人 ○	参加人数 目標値: 5,000人 実績値:17,682人 ○
内部評価	評価結果 大変よく達成できた 4	評価結果 大変よく達成できた 4
戦術を評価するための指標の分析結果(事実確認)	会員数 160組315名(令和6年3月末時点) 利用者数の内訳(延べ人数) ・会員向け行事 666人 ・事務局会議 109人 ・グループ活動 715人 ・学芸員の調査研究補助 251人	・コーポレーションデーは、5団体で入館者数は14, 718人であった。また、企業担当の営業もあり内1団体は新規、2団体はコロナ禍以前に実施していたものが復活した形となった。 ・共催による連携事業については、研究・活動団体3件、県の研究機関2件、その他県の機関3件、博物館1件、学校1件、大学3件、企業団体6件の計19団体と幅広い相手先と連携し、自然系の内容から子ども向けのワークショップなど幅広い内容を入館者に提供し、2,964人の参加者を得た。
特筆すべき取組(評価できる点)	会員向け行事は、月2回の開催を目標に計画している。令和6年度は2月は1回のみであったが、4月・6月・7月・8月・1月に3回以上の行事を開催し、目標以上となった。グループ活動や学芸員の調査研究補助活動も定期的実施されており、活動は順調といえる。令和6年度より、地球しらべ隊のグループ活動が発足し、11回の活動を行った。	24団体と連携し、参加人数17,682人と大幅に目標値を上回った。
改善視点(課題)	郵送料金の値上げにより、現在の収入額での運営が困難となっている。令和7年度からは通信の発行と発送を隔月とし、印刷会社を再検討して費用を抑えつつ、カラー印刷・ページ数を増やすなどの工夫を行い、会員サービスの低下を軽減している。事務局は、安定した運営のためにも会員数500名を目標としており、そのために魅力的な行事内容を模索している。	本事業は相手先団体の数によってそこにかかる経営資源の配分が変わってくる。担当職員のオーバーワークと固定化による練度向上に頼る点が多々あり、事業実施の簡略化、定型化、日程・実施方法の固定化、パッケージ化などの事業実施のスマート化が求められると思われる。
具体的活動指標	事業実施件数 目標値:20件/年 実績値:23件/年 ○	開催件数 目標値:20件 実績値:24件 ○
備考		
外部評価	評価結果 4 利用者数が目標値を上回っていることから4と評価する。	評価結果 4 目標値を大きく上回っているため4と評価する。目標値と実績値の乖離が大きいが、大規模なコーポレーションデーの誘致ができたことによる成果である。

中間アウトカム	中間アウトカム A			中間アウトカム B		
	A	利用者が三重への愛着・魅力を感じる		B	MieMuが気軽に利用できる場となる	
成果指標	博物館事業で三重の魅力を 知った割合	目標値 75% 実績値 66.6% △		博物館を身近に感じた割合	目標値 75% 実績値 11.4% △	
結果指標	年間入館者数	目標値 185,000人 実績値 374,373人 ○		年間入館者数	目標値 185,000人 実績値 374,373人 ○	
成果を評価するための指標の分析結果(事実確認)	●博物館事業で三重の魅力を知った割合 基本展示:73.8%、パール:66.2%、標本:78.4%、刀剣:64.1%、ジブリ:56.5%、全体:66.6%			「ある」と回答した方が県内500人中57人(11.4%) 県外を含めた1000人中では、72人(7.2%)		
改善視点(課題)	今回、展示アンケート結果から成果指標値を算出したが、博物館事業にはイベントなども含まれるため、中間アウトカムの成果指標の評価方法を見直す必要がある。			・来館経験のない方に積極的にPRし、来館につなげることでMieMuを身近に感じてもらう。また、移動展示や学芸員講座、みえむアウトリーチキットなどの直接利用に加え、遠隔地にお住まいの方にもMieMuを身近に感じていただくきっかけとする。		
内部評価	達成度 3	展示室(基本展示・企画展示)アンケート回答者2,778人のうち、「三重の魅力を知った」と読み取れる回答は1,849人で、その割合は66.6%であった。 ・目標値75%を下回ったが、標本展では78.4%と目標値を達成しており、三重を扱ったパールと刀剣の展示でも、60%を超えていることから、「2. どちらかという達成できていない」と評価した。		達成度 1	・県内在住のeモニターアンケート回答者500人のうち、「MieMuを身近に感じた」という回答は57人で、その割合は11.4%であった。また、県外在住者を含めた1000人では、72人で7.2%であった。目標値75%に対し、低い結果となったため「1. 全く達成できていない」と評価した。	
備考	※展示アンケートの自由記述で三重の魅力を知れたと読み取れる回答を抽出した割合で算出した			※県政eモニター制度を利用し、総合博物館に関するアンケートのうち「ご自身の普段の生活の中で、MieMuを身近に感じることはありますか」という質問に対し、「ある」と答えた割合。		
外部評価	達成度 3	アンケート設問が適切か、聞きたいことが聞けているのかとの疑問がなされた。また、アンケートの分析方法の見直しやMieMuの価値について質的な評価が必要との指摘があった。		達成度 1	アンケート設問が抽象的で、回答者の「身近さ」の解釈の幅が大きく難しいと指摘。また、県民全体を対象とした調査のため、来館者数(県民の約1割)と比較しても「11.4%」という数字は、博物館業界の実態を示すもので真摯に受け止めるべきだが、悲観しすぎる必要はなく目標値の設定が適切でない。この結果を受け、今後の5年間でどこまでこの割合を伸ばしていくかが大事。目標値の再設定や、設問の再考などもある。真剣に議論すべき。	